

モデルプログラム検証 カリキュラム（実施計画 細案（3回分））

実施団体名 徳島大学

○養成・研修 / ○基礎・専門・支援員

★参照したモデルプログラムNO.（報告書 pp. 207-244） 下線：内容・項目（pp. 72-76）

日時・場所	2019年1月中3回 火曜日 10:20-11:55 徳島大学			
実施団体・機関	徳島大学 総合科学部			
研修・授業名	日本語教育方法論Ⅱ			
受講者	・人数：19 ・年齢層：20代（19）名 3回出席者は11名 ・その他：日本人学生は2年生7名、3年生2名、4年生1名、留学生9名 留学生はクアアチア、韓国、中国、台湾 N2からN1レベル ・受講者の立場：日本人学生・交換留学生			
演題・テーマ☆	①外国人児童生徒教育の考え方 ③外国人児童生徒等受け入れの現状と施策 ⑤学校の受け入れ体制 ☆研修内容（報告書 pp.72-76）を反映			
到達目標	国内の外国人児童生徒の徳島県内の現状を知り、指導者としての教育・支援の手がかりをつかむ。			
活動展開（分）	★	形態	留意点	参考資料
1月8日 ①<導入>： i. 外国人児童生徒の置かれた立場を知る 結末をグループで話し合う。（30） ii. 元外国人児童生徒からの体験談 小-高まで （60） 質疑応答	⑫	読解	課題（前週）： ・漫画を読んで結末を考えてくる 保護者・児童・教師等の立場 留学生の移民等の自国の体験紹介 ゲスト： 市内のフィリピン人高校3年生	漫画 「話さぬ父親」 ゲスト資料
	②	演習		
1月15日 ②<展開>： （各45分） i. 徳島県内の取り出し教育実施者からの報告 ・それぞれの立場からの問題点と対応 ii. 徳島のボランティア団体の取組紹介 ・夏休み寺子屋教室 ・教材作成等	⑨	講義	ゲスト： 県内で実際に指導している人 JTM とくしま日本語ネットワーク紹介	ゲスト資料 「子どもと暮らすための のこんにちはとくしま」
	①	講義		
	②	講義		
2月5日 ③<まとめ>： i. 外国人児童生徒教育・支援の重要性の確認 日本語教育・多文化理解等の知識 ii. 外国人児童生徒教育・支援に対して、 必要なことの確認 受講生の興味関心 ①②から得た情報を基にグループで話し合い iii. アンケートによる振り返り	⑬	講義 演習 視聴	資料による確認 DALビデオ 話し合い	在留外国人統計、 県作成資料 DALビデオ
	⑮	講義		